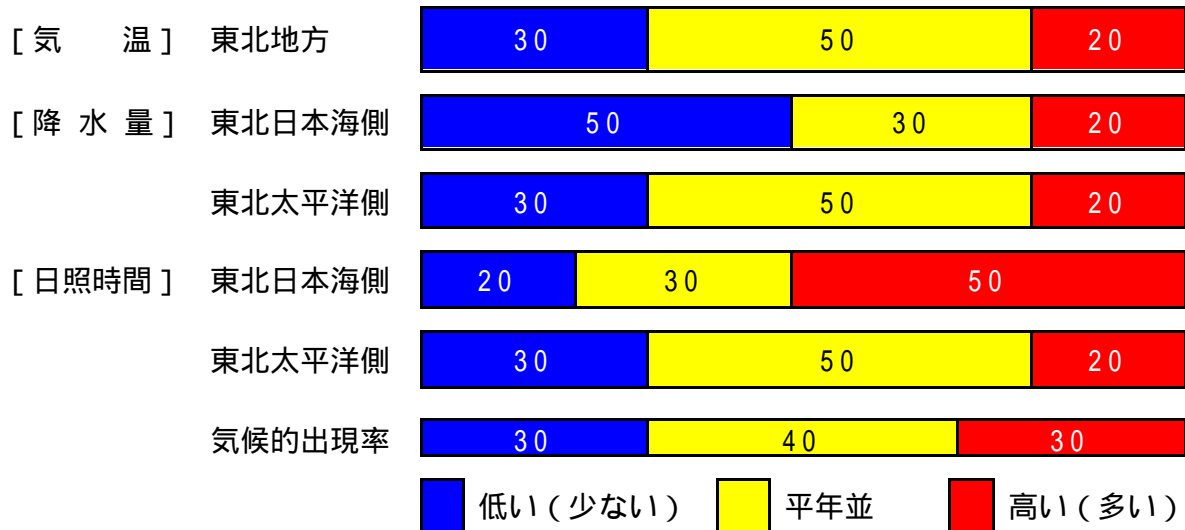


# 東北地方 1 か月予報の解説 (予報期間: 7 月 1 日 ~ 7 月 30 日)

平成 12 年 6 月 30 日 仙台管区气象台

## 1. 向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)



[ 気 温 ]: 東北地方は「平年並」の可能性が最も大きく、その確率は 50% です。次に大きい確率は「低い」で、その確率は 30% です。「高い」の可能性は 20% と小さい。

[ 降 水 量 ]: 東北日本海側は「少ない」の可能性が最も大きく、その確率は 50% です。次に大きい可能性は「平年並」で、その確率は 30% です。「多い」の可能性は 20% と小さい。

東北太平洋側は「平年並」の可能性が最も大きく、その確率は 50% です。次に大きい可能性は「少ない」で、その確率は 30% です。「多い」の可能性は 20% と小さい。

[ 日照時間 ]: 東北日本海側は「多い」の可能性が最も大きく、その確率は 50% です。次に大きい可能性は「平年並」で、その確率は 30% です。「少ない」の可能性は 20% と小さい。

東北太平洋側は「平年並」の可能性が最も大きく、その確率は 50% です。次に大きい可能性は「少ない」で、その確率は 30% です。「多い」の可能性は 20% と小さい。

## 2. 予想される天候の特徴

(もっとも高い確率の予報が実現した場合の天候は以下の通りです。)

向こう 1 か月

梅雨前線の活動が不活発なため、東北地方への梅雨前線の影響は弱いでしょう。また、太平洋側を中心にオホーツク海高気圧の影響を受ける時期がある見込みです。このため、東北日本海側では平年より晴れる日が多いですが、東北太平洋側では、平年と同様に曇りの日が多い見込みです。

平均気温は平年並でしょう。

平年の晴れ日数は、東北地方で約 15 日です。

各予報期間の天候の特徴

1 週目……………

明日 (1 日) は低気圧の影響で雨の降る所がありますが、その後は前線の活動が弱まるため、曇りまたは晴れの天気となる見込みです。

平均気温は高い見込みです。

平年の晴れ日数は東北地方で約 3 日です。

2 週目…………… 前線の活動は不活発で、東北日本海側では晴れる日が多いですが、(7 月 8 日～7 月 14 日) 東北太平洋側では、オホーツク海高気圧の影響を受けるため曇りの日が多く、低温となるでしょう。

平均気温は低い見込みです。

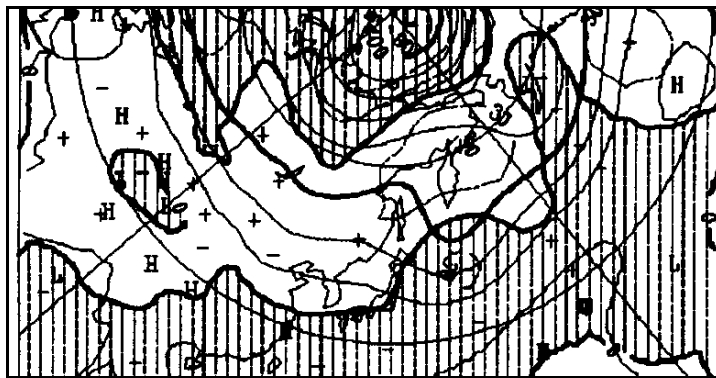
平年の晴れ日数は東北地方で約 3 日です。

3～4 週目…………… 引き続き、前線の活動は不活発で、東北日本海側では晴れる日が多いですが、(7 月 15 日～7 月 28 日) いですが、一時オホーツク海高気圧の影響を受け、東北太平洋側では曇りの日が多いでしょう。

平均気温は平年並の見込みです。

平年の晴れ日数は東北地方で約 7 日です。

#### 予想される天候に関する循環場の特徴（アンサンブル平均天気図）



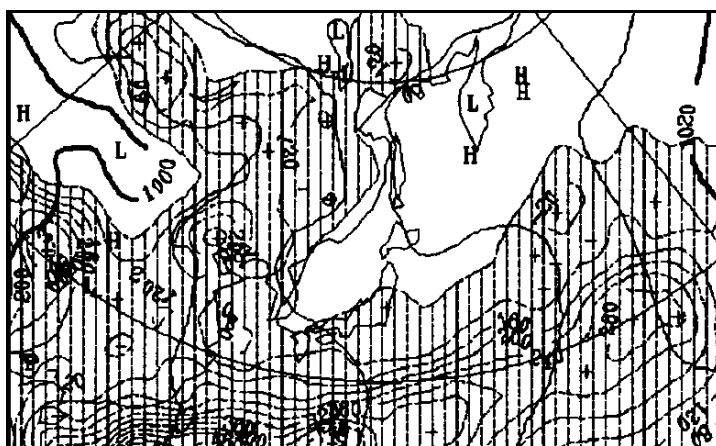
月平均の 500hPa 高度・偏差  
(等高度線：60m 毎、偏差：30m 毎、陰影部：負偏差)

##### ・ 500hPa 高度・偏差

月平均でみると、日本付近の偏差はほぼ平年並。日本付近の流れは 2 週目以降、弱い東谷となって前線の活動は不活発となる見込み。

オホーツク海にはオホーツク海高気圧に対応する気圧の尾根が予想されている。

週別（図略）に見ると、太平洋高気圧の西への張り出しは弱く、オホーツク海付近の気圧の尾根は、2 週目以降強まる見込み。



月平均の地上気圧と降水量  
(等圧線：4hPa 毎、降水量：40mm 毎、陰影部：80mm 以上)

##### ・ 地上気圧と降水量

月平均でみると、太平洋高気圧の西への張り出しは弱く、カムチャツカ半島の南にはオホーツク海高気圧があって北日本に張り出す。梅雨前線の位置は不明瞭。だが、本州付近は相対的に低圧部。

日本の南には強い降水域があるが、これは熱帯擾乱によるものと考えられる。東北地方には強い降水域はかからない。

週別（図略）では、2 週目以降オホーツク海高気圧が北日本に張り出す。週別でも、強い降水域が東北地方にかかることはない。2 週目以降、オホーツク海高気圧が出現し、太平洋側を中心に影響を受ける時期がある見込み。

### 3．北日本 850hPa の気温平年差の実況と各アンサンブルメンバーの予想

北日本 850hPa の気温平年差は、アンサンブルメンバーの平均でみると、1 週目後半から下  
降し平年を下回る状態で推移する。3 週目後半から 4 週目にかけて平年並に戻る。ただ、2 週  
目以降メンバー間のばらつきが大きくなるため、信頼度は小さい。



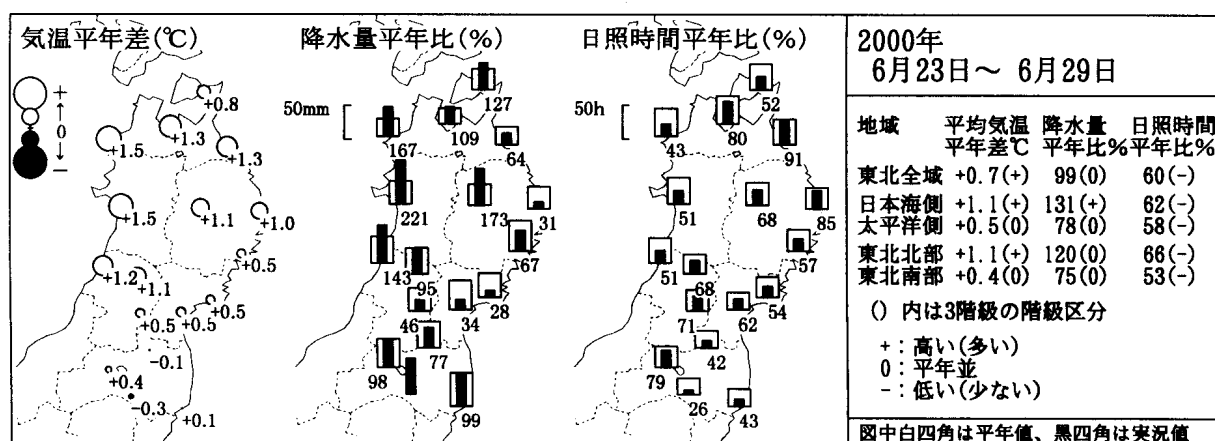
注：1 か月予報では、よく似た初期値から出発した 10 個の数値予報結果のバラツキ具合から予報の信  
頼度や確率を計算します（この手法をアンサンブル予報といい、10 個の予報結果のそれぞれをアンサ  
ンブルメンバーといいます）。一般に予報結果がばらつかないほど、大気の流れが予測しやすい状態に  
あると考えられます。このような状態の時は、信頼度が高くなり、確率の大きな予報を出すことがで  
きます。

### 4．最近 1 週間（6 月 23 日～6 月 29 日）の天候の経過

この期間、日本の南岸に停滞した梅雨前線と、日本海を進む低気圧の影響で、曇りや雨の  
日が多かった。5 月中旬から少雨の状態が続いていた東北北部では、27～28 日にまとまった  
降水があり、少雨の状態は解消に向かった。29 日には移動性高気圧に覆われおおむね晴れた。

仙台管区气象台は、東北北部は 6 月 24 日頃に梅雨入りしたと見られると発表した。

平均気温は、東北日本海側で平年差+1.1℃と平年より高く、東北太平洋側で平年差+0.5℃  
と平年並だった。降水量は、東北日本海側で平年比 131%と平年より多く、東北太平洋側で  
平年比 78%と平年並だった。日照時間は、東北地方で平年比 60%と平年より少なかった。



最近 1 週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差（比）

### 5．梅雨入りについて

	今年の梅雨入り	平年の梅雨入り	昨年の梅雨入り	平年の梅雨明け	昨年の梅雨明け
東北南部	6 月 11 日頃	6 月 12 日頃	6 月 16 日頃	7 月 23 日頃	7 月 24 日頃
東北北部	6 月 24 日頃	6 月 14 日頃	6 月 16 日頃	7 月 26 日頃	7 月 26 日頃